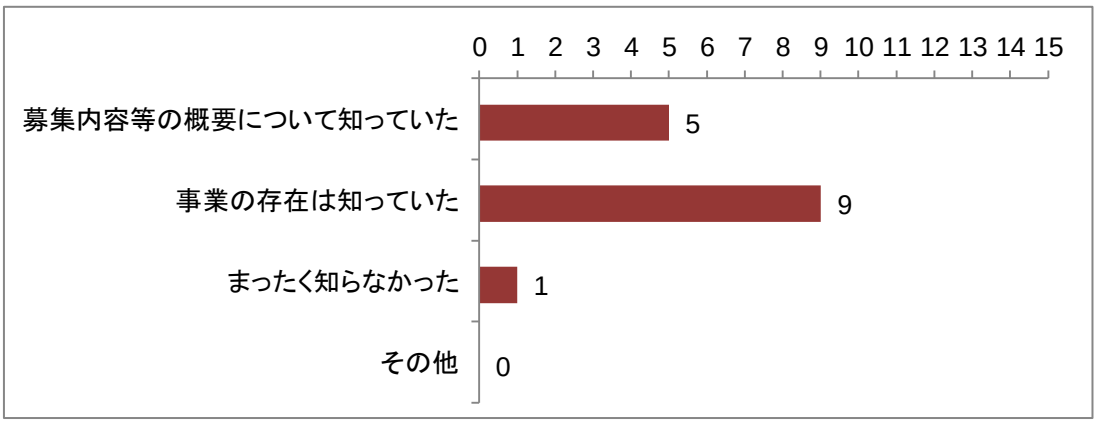
平成 24 年 8 月 22 日
国立大学図書館協会人材委員会

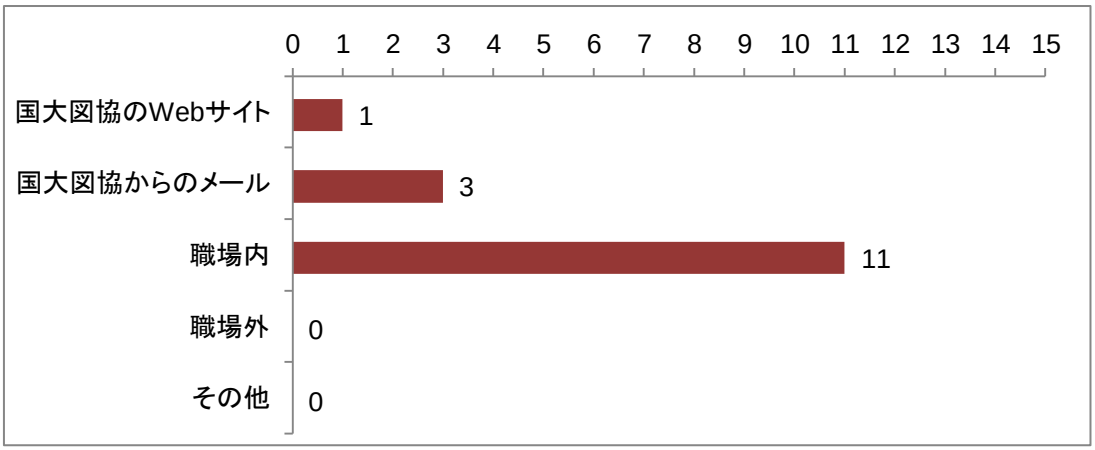
国立大学図書館協会海外派遣事業
海外派遣経験に関するアンケート集計結果（概要）

回答対象者:	国立大学図書館協会海外派遣事業 派遣者（平成 18～23 年度） 15 名
回 答 者 数:	15 名 （回答率 100%）
回 答 期 間:	平成 24 年 1 月 16 日（月）～1 月 31 日（火）

〔1〕応募する以前から国立大学図書館協会海外派遣事業を知っていましたか？

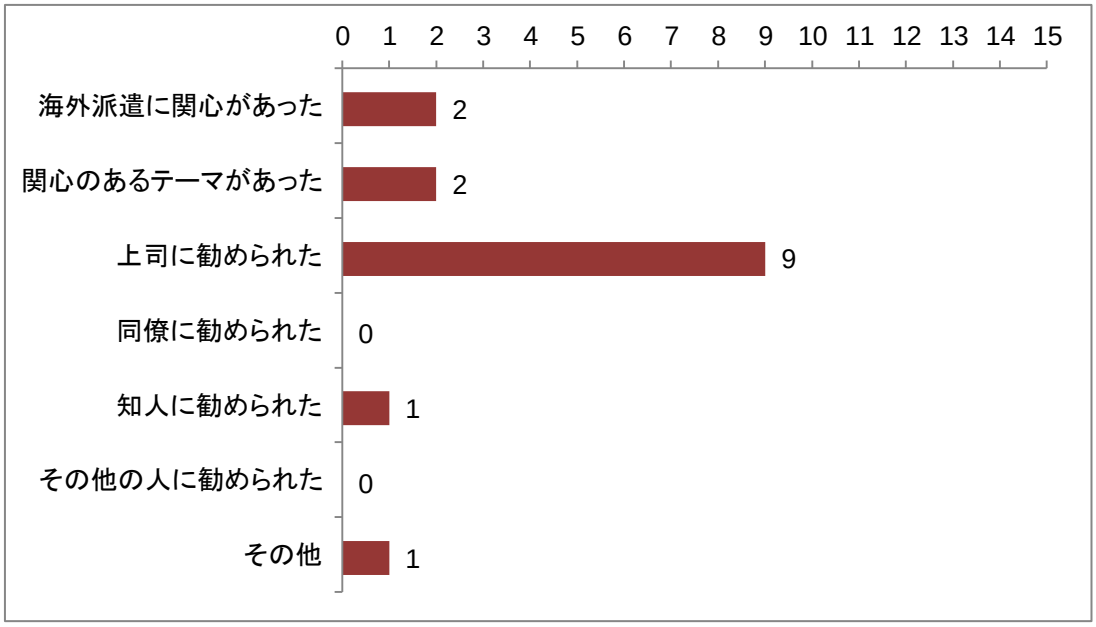


〔2〕派遣された年度の募集情報は、当初、どのようにして知りましたか？



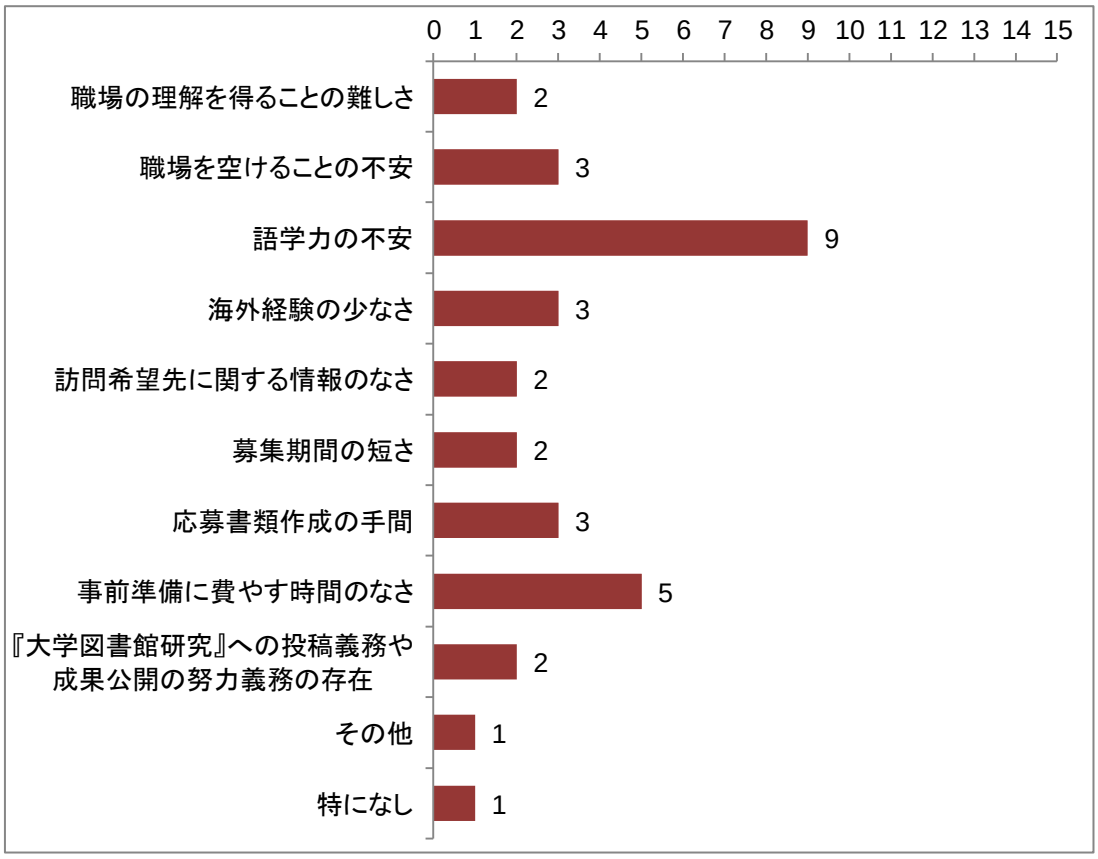
【職場内】: 上司からの案内や、国大図協からの依頼文書のメール転送・職場内回覧

〔3〕応募を決めたいちばんの要因はなんですか？



【その他】:「海外の大学図書館事情に関心があった」

〔4〕応募するにあたって障壁となった要素を選んでください（上位3つまで）。

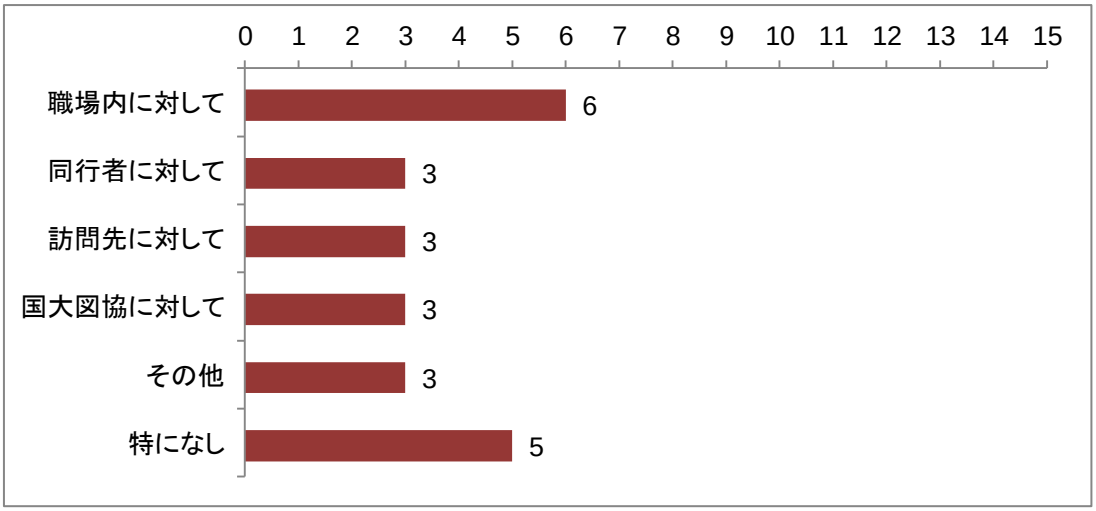


【その他】:「申請テーマの妥当性」

〔5〕応募にあたって、どのようなサポートがあるとよいと思いますか？

・ 職場のサポート： 上司の理解、応募の勧め、職場のバックアップ、
業務の一環としての語学研修受講機会
・ 手続き面でのサポート： 国大図協事務局からの事務手続きの詳細説明、
派遣経験者への相談窓口
・ ノウハウの共有： 派遣経験者からの経験談やアドバイスの提供
・ 応募時のサポート： 応募多数の場合に、多くの人が機会を得られるような配慮

〔6〕派遣決定後、渡航中、帰国後、それぞれの場面で困ったことはありましたか？



【職場内に対して】:
・ 通常業務の合間に事前準備を進める余裕がない
・ 日程が決まるのが遅くなり、留守中の業務分担等で職場に迷惑をかけた

【同行者に対して】:
・ グループ派遣の場合、他大学の職員との連絡調整が煩雑なので、宿泊、交通手段の手配について各職場の庶務担当のサポートがあると良かった

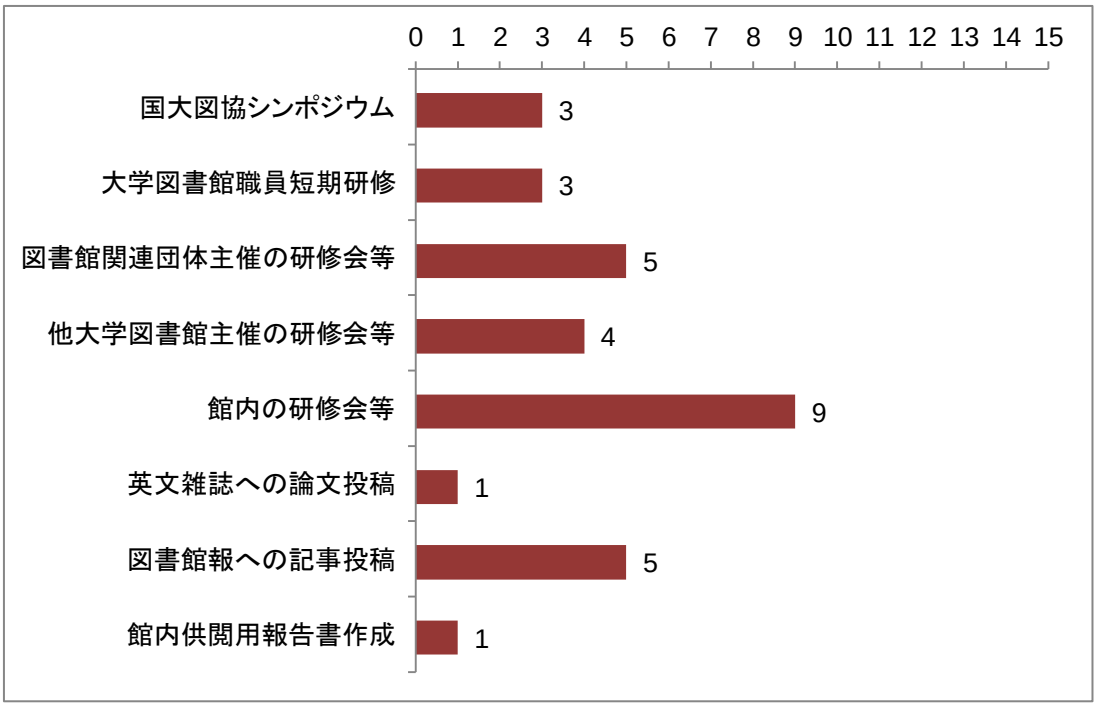
【訪問先に対して】:
・ 訪問先との連絡がスムーズに進まなかった

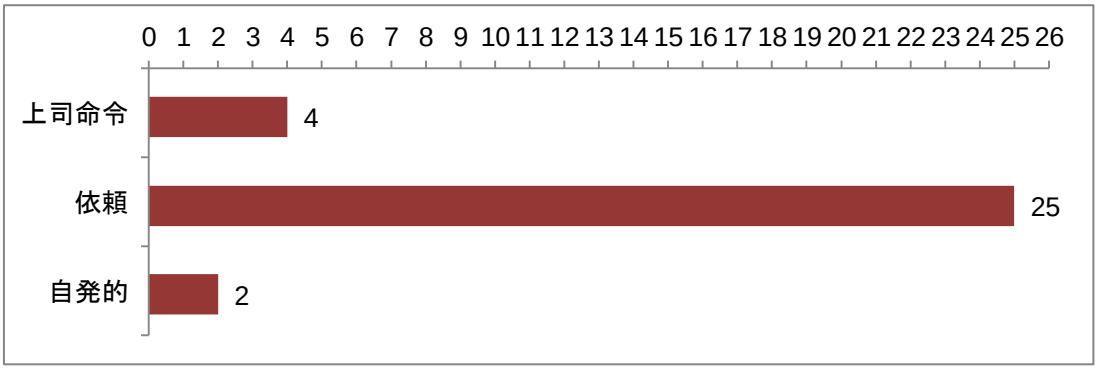
【国大図協に対して】:
・ 正式な決定通知が遅く準備期間が少なかった
・ 旅費等の手続きに関する具体的な指示がなく、チケットの手配に困った

【その他】:
・ 語学、海外訪問のビジネスマナーを自助努力で習得するのは困難

【特になし】:
・ 訪問先の反応が良く、ほとんど困ることはなかった

〔7〕『大学図書館研究』への投稿以外に行った成果報告の種類（記事投稿、報告会での発表、など）と、それぞれどのような経緯で行うことになったか（依頼、上司命令、自発的に、など具体的に）教えてください。





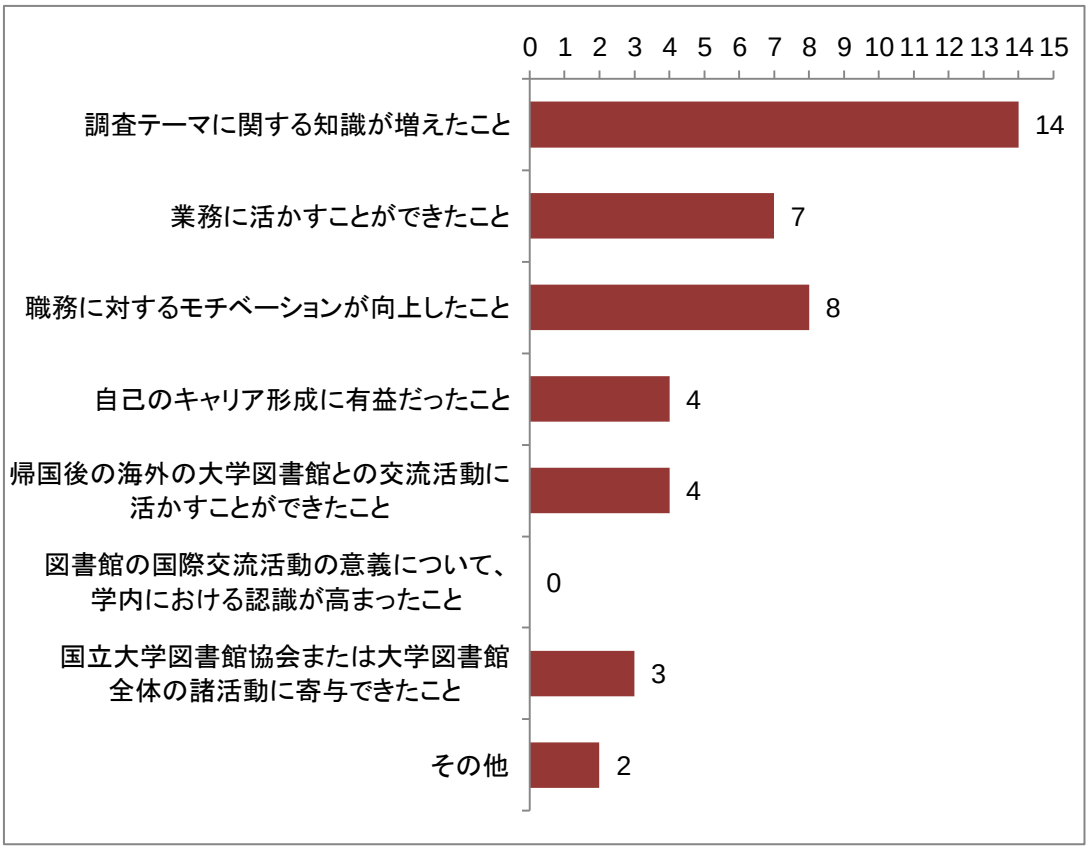
【報告・発表】

- 国立大学図書館協会シンポジウム〔3〕＝国大図協から依頼／上司から命令
- 大学図書館職員短期研修〔3〕＝主催者から依頼
- 大学図書館関連団体主催の講演会・研修会〔5〕＝主催者から依頼
- 他大学図書館の講演会・研修会・報告会・勉強会〔4〕＝主催者から依頼
- 館内研修会・報告会〔9〕＝担当職員から依頼／上司から命令

【報告書・記事投稿】

- 英文雑誌に論文を投稿（参加者と共著）〔1〕＝自発的
- 自館の図書館報に記事を投稿〔5〕＝担当者から依頼
- 館内供閲用の報告書を作成〔1〕＝自発的

〔8〕海外派遣に応募してよかったこと、帰国後役に立ったと感じたことを教えてください。
（複数回答可）



【調査テーマに関する知識が増えたこと】:

- 海外の先進的事例に触れることができた
- 訪問先の図書館でも共通の課題を抱えていることを知り、それらの課題に関する調査国の状況及び世界的動向をつかむことができた
- 事前の文献調査により集中して学び、新しい知識を得たのと同時に、帰国後も調査テーマについて継続的に情報収集を続けるきっかけとなった

【業務に活かすことができたこと】:

- 訪問先の大学図書館と、業務上の提携関係を結ぶことができた
- 訪問先の例を参考に、講習会教材を作成した
- 情報収集に際して視野が広くなった
- 派遣による海外訪問の経験が、後の海外出張の機会に役立った

【職務に対するモチベーションが向上したこと】:

- 図書館の存在意義、図書館で働く意義を強く認識した
- 海外の図書館員の高いモチベーションや意識に刺激を受けた
- 応募から成果発表までを成し遂げたことにより自信を持てた
- 図書館員も、ある種のステークホルダーとしての義務と権利を積極的に行使すべき、という自覚が芽生えた

【自己のキャリア形成に有益だったこと】:

- 語学力や知識の向上
- 派遣と発表を通じた人脈形成が図れた

【帰国後の海外の大学図書館との交流活動に活かすことができたこと】:

- 海外派遣後も情報交換ができるネットワークづくりができた

【国立大学図書館協会または大学図書館全体の諸活動に寄与できたこと】:

- 『大学図書館研究』誌への投稿や各所での発表による情報提供

【その他】:

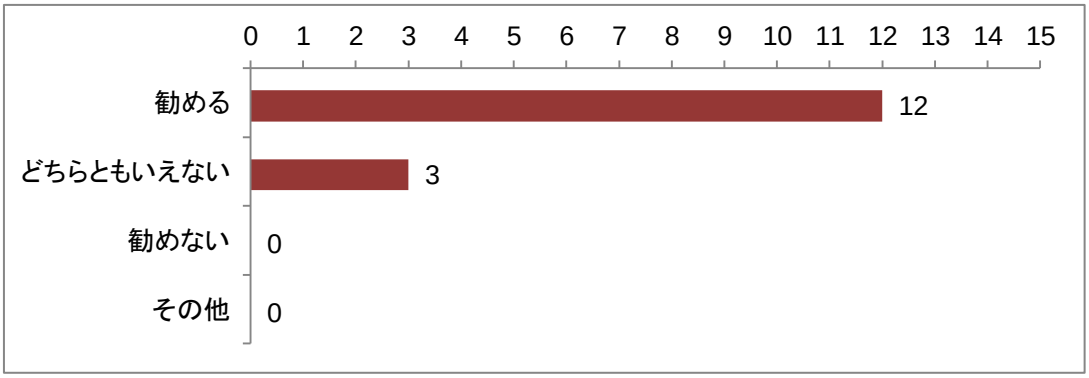
- ウェブサイトや文献調査だけでは得られない情報が得られた
- あるテーマに関して調査する際の基本体制をつくることができ、現在も活かしている

〔9〕国大図協海外派遣事業の制度は「こうすればもっとよくなる」と思う点を教えてください。

- 長期派遣制度の充実
- 応募資格（短期研修受講歴や勤務歴等）の緩和
- 派遣内容・派遣先の多様化（大学図書館だけでなく、関連組織や出版社等）
- あらかじめ大まかなテーマが設定してあると、応募しやすいのではないか。
- サポートの充実

  ※ 一方で、困難を克服することも含めて勉強になるので、過剰なサポートは必要ないとの意見もあり
- 派遣経験者間の連携・交流の場の設定、派遣希望者・対象者をフォローアップする仕組みの構築
- 派遣期間中のリアルタイムな報告の公開（ブログ等）、成果報告機会の拡充
- 潜在的な派遣候補者の発掘が課題

〔10〕海外派遣への応募を他の人に勧めますか？



【勧める】:

- 事前準備や現地調査による知識の向上や視野の拡大
- 応募準備から成果発表までを自律的に行うことによるスキルアップ
- グループ派遣、訪問先での交流、成果発表の機会などを通じた人脈形成
- 業務や自分の能力・役割・キャリアプランについて考えるきっかけ、モチベーションの向上につながる
- 海外の状況を知り日本の状況を再確認することが、新たなサービスや業務の改善につながる
- 現在の日本の大学図書館には、海外の図書館の事情を知り、コミュニケーションをとれる職員が必要である
- 海外の学術研究図書館の動向は多くの示唆に富んでおり、日本で得られる情報だけでなく、現地に赴いて実際に見聞し意見交換すると、背景にある社会的・文化的な基盤や問題意識、価値観などに踏み込んだ洞察を行えると思う

【どちらともいえない】:

- 明確な関心や希望がある場合は応募する意義があるが、準備の負担も大きいため、関心がない人に無理に勧める必要はない